

- 実施主体 麻生恵／東京農業大学地域環境科学部造園科学科
- 実施場所 南阿蘇村立両併小学校
- 実施期間 平成27年7月～平成28年2月

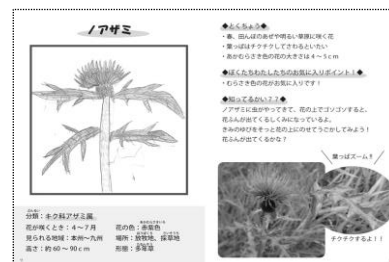


◇背景・ねらい

平成26年度に両併小学校で草原学習を行い、草原学習の導入部では、「阿蘇が国立公園だということを知らない」、また「草原に行ったことがない」と言っていた子どもたちが、1年間草原学習を積み重ねることにより、草原への関心がより高まり、特に、草原の植物や昆虫について大変関心を持つようになった。そこで、平成27年度は草原の生き物図鑑を、子どもたちと草原で自然観察を行いながら作成した。

◆実施概要

- ・阿蘇花野協会の瀬井純雄氏を講師に迎え、2015年7月15日に夏の野の花の植物観察、9月18日に秋の野の花の植物観察を行い、計32種の植物を観察した。
- ・野の花観察会の振り返りとして、「植物観察シート」を作成し、児童が野の花について①特徴②好きなところ③知っていること④スケッチを記入した。
- ・植物観察シートをもとに、10月から2月にかけて、植物図鑑を制作した。制作にあたっては、児童が持ちやすいサイズ(A5サイズ)、草原観察の体験について図鑑を見ただけで思い出せるような内容とデザイン(カラー印刷)、児童独自の視点や感覚を取り入れる、という点を重視した。また、図鑑として機能するように、児童のスケッチだけでなく観察時に撮影した写真も掲載した。
- ・児童は植物観察に積極的に取り組んだ。植物観察シートでは、児童ならではの視点や鋭い観察力で細かな特徴への発見があったようだ。特にスケッチでは、色や形、模様といった植物の特徴が非常によくとらえられていた。



植物観察シートをもとに図鑑作成

◆実施体制

- ・草原の植物観察のフィールドと講師は阿蘇花野協会の協力を得た。
- ・図鑑制作は両併小の児童(3、4年生、9名)と、東京農業大学、NPO法人阿蘇花野協会とで制作した。植物に関する専門的記述は阿蘇花野協会が監修し、図鑑構成やレイアウトは大学が担った。
- ・両併小学校と東京農業大学で申請した「阿蘇文化遺産教育モデル事業校」の助成により、バスのレンタルや図鑑の製本(100部)が可能となった。

◆成果

植物図鑑は76ページのカラー印刷で製本し、南阿蘇村の小中学校、老人ホーム等(100部)に配布された。熊本日日新聞、朝日新聞(デジタル版)で報道された。



植物図鑑表紙

◆実施者の感想

昨年の草原学習を通じ、阿蘇の草原へ行ったことがなかった児童が草原への関心を一気に高めていった。そこで、今年度は、子ども達が主体的に草原を調べ、その成果を子ども達の言葉・スケッチでまとめ、地域へ発信することにより、児童が草原及び野の花への愛着をより深めることをねらいとした。その結果、児童、保護者、学校の先生、地域の方に喜んでいただける野の花図鑑を制作することができとても大きな成果を得ることができた。